

令和3年度 江戸川区立松江小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	「かがやき」力いっぱい笑顔いっぱい松江の子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ○問題解決学習や探究的な学習を基盤にした授業改善 ○校内研究による体育の授業力向上と児童の体力向上へ向けた取組の強化 <課題> ○基礎・基本の定着や更なる学力向上 ○松江スタンダードを基にした指導の徹底		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	年間の補習計画を立案し、計画的に実施する。	毎週、補習日を全校で統一して設定し、児童の実態に応じて計画的に指導する。	A	B	補習日を統一し、個別の課題に応じて支援を行ってきた。ベネッセの学力調査を実施し、結果を分析した。	B	感染対策の中での指導で大変だと承知している。今後も、児童のために取組を充実させてほしい。	基礎・基本の確実な定着を図るために、家庭学習キャンペーンや補習の取組を徹底する。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実（読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	学校図書館の利用を、意図的・計画的にできるようにする。	毎週の利用予定を作成し、全学級が定期的に利用できるようにしていく。	A	B	タブレットの支給により、安易にインターネットでの調べ学習をしてしまうことがあるので、タブレットの使い方のきまりを見直し、インターネットリテラシー教育を繰り返し行った。読書科の指導について教員研修を行い、指導力向上に努めた。	B	今年度も授業を参観することができなかったので評価は難しいが、タブレットだけでなく、本から情報を得る大切さもしっかり指導してほしい。また、家庭での読書習慣も啓発していく必要がある。	教員研修の充実を図り、読書科の指導力向上を目指す。朝読書の時間を活用して児童の調べ学習の充実を図る。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	体力低下に歯止めを掛けられるように、休み時間の外遊びを充実させるとともに、日常的に運動に取り組めるように運動遊びを計画的に実施する。	体力調査において江戸川区の平均値を上回る。運動遊び年間35回、体力向上に向けた取組年間3回の実施を目指す。	B	B	感染症対策をしつつ運動の機会を確保するため、体育館や校庭の割り振りをした。また、なわとび・マラソンアタックを設定し、目標をもって運動に取り組めるように工夫した。	A	感染症対策で、ボールや遊具、身体接触が制限されている中、休み時間の縄跳びで大きな成果が出たことは良かった。今後も引き続き、体力向上に努めてほしい。	休み時間を活用して、多様な運動に取り組ませることで、日頃から体力向上を目指す。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	マラソン、なわとびアタック、生活リズム向上習慣、オリパラ掲示板の充実を図る。	マラソン・なわとび年間各4週間実施して体力向上を図る。オリパラ掲示板の学期ごとに工夫した掲を行う。	B	A	なわとびアタックを実施し、チャレンジカップなど活動を工夫して児童の意欲を向上させた。	B	パラリンピックの観戦が実現しなかったことは残念だった。しかし、感染拡大を防止するため、やむを得ない結果だった。	挑戦する意欲と共にボランティアマインドを育てるために、地域との交流を深める。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	授業力向上に向けた教員研修の実施、年間指導計画の見直しによる実態に応じた指導、ALTによるネイティブの発音に触れる機会の充実	学年の実態に応じた簡単な英語を使ったコミュニケーションができる児童が各学級70%	A	A	外国語専科を設けたことで、コミュニケーションを活性化するような学習内容を展開し、外国語のコミュニケーションができる児童が70%を達成した。ALTの更なる活用が必要である。	A	外国語専科がいる学校として、他の学校より充実した外国語学習ができていると感じる。先生方の取組をさらに地域に発信したほうが良いと思う。	ALTの有効活用を図り、今年度の取組を土台とした更なるコミュニケーションの技能向上を目指す。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	生活指導職会を設定し、全教職員で共通理解を図る。	毎週、補習日を全校で統一して設定し、児童の実態に応じて計画的に指導する。生活指導職会を設定し、迅速かつ適切な対応を目指す。	A	B	毎週的生活指導職会により、児童の指導に迅速に生かすことができた。	A	今年度も大きな事件、事故がなく、安全な学校づくりができていると感じる。児童のあいさつも年々良くなっていると聞いているので、今後は地域の中でも元気な挨拶ができるように指導してほしい。	他の学年の児童にも積極的に声を掛け、学校全体で見守る意識を高める。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実	・校内委員会を設置し、適切な指導・支援を目指す。 ・全校で、教室内の掲示を統一したり、板書の書き方を全校で統一するなど、教室の環境づくりに努める。	適宜、校内委員会を設置し、情報共有を図る。また、ユニバーサルデザインを取り入れ、教室環境を10月までに確実に徹底する。	B	B	教室の掲示物や環境を統一してきたことで、学級による差異が少なくなっている。日々、教育環境を整えられるようになっていく。	A	感染対策で授業参観ができていないが、特別支援学級への転入が5名と聞き驚いている。特別支援教室への期待が高まっていることは確かなので、今後も充実した支援をお願いしたい。	環境整備日を設定し、適切な教育環境が作れるようになっていく。
		・エンカレッジルームの活用促進	エンカレッジルームを組織的・計画的に活用できるようにしている。	エンカレッジルームの活用表を作成し、計画的な活用を目指すとともに、特別支援コーディネーターのリーダーシップで効果的に活用する	A	A	エンカレッジルームの活用表を作成したことで、組織的な運用ができています。	A	教室で学習できない児童が、エンカレッジルームを活用できることは良いことである。教室で学習できるように励ましたり気持ち安定させたりする指導を今後も続けてほしい。	エンカレッジルームの意義を周知する。対象児童を明確化し、簡単な指導計画を作成する。
		・交流及び共同学習の充実	運動会や全校遠足などの行事に加え、学習でも交流及び共同学習の機会を設け、積極的な交流を図る。	毎月1度の交流を目指し、行事や学習などでの交流を計画する。	B	B	運動会やふれあい遊びなど定期的に交流はできた。交流の意図的・計画的な実施を図る。	B	コロナ禍で交流が難しい中、遠足や運動会、ふれあい遊びなどで交流していると聞きありがたいと感じている。交流の様子をさらに発信していただくとありがたい。	通常とわかばの合同学年会の計画的な実施。わかば学級指導体験による教員の指導力向上。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	教員ICT研修を計画的に実施する。	高学年のPCによるプレゼン作成、おたのしみPC教室年間6回、教員の各教科におけるICTを活用した授業の実践を目指す。	A	A	研修の機会を設けたことで、教員の指導が少しずつ向上してきている。学級により、タブレットの使用状況が異なる。	B	タブレットが普及しても少し学校に変化があるものと思っていた。教師用タブレットの使いにくさもあると思うが、児童にとってより良い活用の仕方を目指してほしい。	タブレットの使用マニュアルを再度示して徹底する。教員研修をさらに充実させる。
		・各教科の指導力向上に向けた校内研修の実施	区教研各部から、研究の伝達研修を行い、教員の指導力向上に努める。	年間8回の教員研修を企画し、指導力の向上を図る。	A	A	年間11回実施し、教員の指導力向上につながっている。	A	校内研究、日頃の研修によって教員の資質向上が図れていることは素晴らしいと感じる。	年間11回を目指す。生活指導や学級経営など幅広い研修を行う。
特色ある教育の展開	学習規律・生活規律を全校で統一して指導する。	・松江スタンダードの徹底	松江スタンダードを設定し、全校で統一した学習規律、生活規律を設定し、指導の徹底を図る。	4月に松江スタンダードを保護者に提示し、学習規律・生活規律の共通理解を図り、指導を徹底する。10月までに80%の児童に身に付けさせる。	B	B	松江スタンダードを保護者に示したことで、一貫した指導ができるようになった。生活指導など徹底できていないものもあるもので、更なる徹底が必要である。	B	遅刻する児童への指導が気になる。家庭の問題もあるが、学校が厳しく指導する必要もあると感じる。遅刻している児童に地域があいさつしても返事がないなど、生活規律も見直す必要がある。	松江スタンダードの見直しと更なる徹底。